



国民春闘共闘

第14号

2015年3月25日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館

☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

2015春闘・第2回進ちよく状況調査

回答引き出し・追い上げはかる

国民春闘共闘委員会（全労連、純中立労組懇、地方共闘などで構成）は23日、加盟全単組を対象とした2015年春闘における第2回目の「春闘進ちよく状況」調査を実施し、18単産（2233組合）からの報告をまとめました。

1. 要求提出状況

第2回進ちよく状況調査には第1回調査（3月16日現在）と同じく18単産での集計となりました。交渉単位で2233組合となります。

このうち、3月23日段階で要求提出が確認できた組合は、1303組合（58.4%）です。要求提出100%の単産は前回調査と変わらず、合同繊維、検数労連、通信労組、全損保、郵政ユニオンの5単産となっています。これに全倉運（92.5%）が9割台、映演労連（80%）が8割台、JMIU（79.2%）、特殊法人労連（77.8%）、出版労連（76.3%）、民放労連（71.2%）が7割台と続いています。

前回調査（1196組合・53.5%：一部単産集計変更のため修正）からの1週間で、全体では107組合・4.9%増えています。単産別にみると、全農協労連（10.6%増）、民放労連（8.8%増）、建設関連労連（7.5%増）、日本医労連（5.9%増）、建交労（5.7%増）、出版労連（3.1%増）、化学一般労連（1.8%増）、全印総連（0.9%増）、JMIU（0.4%増）で要求提出率が上昇しています。

今年は集計を例年より1週間早めたため、前年同期参考値（2014年3月31日現在：1454組合・62.2%）との比較となりますが、全体では151組合3.8%下回っています。要求提出率が向上している単産は、通信労組（11.5%増）、建設関連労連（5.3%増）、JMIU（3.6%増）、出版労連（1.8%増）、日本医労連（1.1%増）、全印総連（0.5%増）の6単産で、合同繊維、検数労連、全損保、全倉運、郵政ユニオンの5単産が同率、前年同期参考値比マイナスが全農協労連、建交労、化学一般労連、生協労連、民放労連、映演労連、特殊法人労連の7単産となっています。

2. ストライキ権確立状況

調査組合のうち、ストライキ権を確立したのは1079組合（48.3%）で、前回調査から9.4%上昇しています。前回調査時に、批准投票前であった映演労連と調査中であった建交労で約70%の組合がストライキ権を確立し全体を上げたのをはじめ、全農協労連、化学一般労連、全印総連、民放労連、日本医労連で確立組合数が増えています。

全組合でストライキ権を確立しているのは、前回調査同様に、検数労連、通信労組、全損保、郵政ユニオンの4単産で、これに、映演労連（70%）、建交労（69.9%）、JMIU（62.5%）、合同繊維（60%）、特殊法人労連（55.6%）、日本医労連（54.1%）が続いています。

一部単産の集計方法に変更があったため正確な比較とはなりません、前年同期参考値（1127組合・48.2%）と比べほぼ同水準となっています。しかしながら、以前として過半には達しておらず、十分な取り組みとはなっていない状況に変わりはありません。

3.回答引出し状況

要求提出した1303組合のうち、回答を引き出したのは627組合（48.1%）となりました。回答引出し率100%の単産は、前回調査時に確認出来ている郵政ユニオン、特殊法人労連に、通信労組が加わりました。続いて、建設関連労連（80%）、民放労連（77.5%）、全印総連（72.2%）、生協労連（69.1%）、出版労連（68.9%）、JMIU（62.6%）となっています。

通信労組がNTT各社の「回答延期」の不誠実な対応にストライキ決起で有額回答を引き出し、前回調査時には回答引き出しがなかった建設関連労連で4組合が回答を引き出したのをはじめ、建交労（29組合増）、民放労連（18組合増）、日本医労連（17組合増）、JMIU（13組合増）、化学一般労連（7組合増）、全農協労連（6組合増）、全印総連（4組合増）、生協労連（3組合増）で回引き出し組合数を伸ばし、全体で前回調査（504組合・42.1%）から123組合・6%増えています。前年同期参考値との比較では、176組合・7.1%減少しています。

検数労連では有額回答指定日の3月19日、「現在、次年度の計画を立てている最中」、「中央港湾団交の経過についても注視しているので現段階では回答できない」と全日検、日検協会ともに回答を延期。翌20日の中央港湾団交での使用者団体である日港協の回答は「賃上げについて個別縦割り企業が努力するよう周知する」との内容にとどまったため、3月29日に始業時から24時間ストライキを通告し、25日に第4回目の中央港湾団交が開催されています。また、全倉運が3月25日に、映演労連が4月14日を回答指定日に設定し、日本医労連が23日から27日までを回答引上げゾーンに設定するなど各組織で闘争強化がはかられており、今後の回答引き出し・追上げが注目されます。

4.回答引出し状況

<定昇制度あり>の職場（回答382組合）からみていくと、「定期昇給+ベア」回答を引き出した組合は106組合で回答組合中27.8%となっています。前回調査（90組合・27.5%）から16組合増えており、前年同期参考値（108組合・22%）と比べ5.8%上昇回っています。

単産別では、日本医労連（22組合）、JMIU（20組合）、民放労連（18組合）、化学一般労連（15組合）、生協労連（13組合）、民放労連（12組合）、建設関連労連（4組合）、全農協労連、郵政ユニオン（各1組合）となっています。

前年からは改善方向にありますが、依然として7割は「ベアゼロ・定昇のみ」回答となっています。

<定昇制度なし>の職場（回答198組合）では、回答組合中82.3%にあたる163組合が有額回答を引き出し、前年同期参考値（82.7%）とほぼ同水準となっています。

一方で、建交労（22組合）、JMIU（8組合）、化学一般労連（2組合）、生協労連、出版労連（各1組合）の計34組合で「ゼロ回答」となっており、生協労連からは賃下げ提案の報告も寄せられています。

「定昇+ベア」回答が増えるなど、この間のたたかいの成果が確認される状況となっています。春闘後段の取り組みを一層強めて、「ベアゼロ」、「ゼロ回答」の壁を打ち破り、上積み獲得を広げることが求められます。

5.平均賃上げ額・率とベースアップ平均額

回答があった627組合のうち、単純平均（一組合あたりの平均）額の揭示があったのは419組合で、その平均賃上げ額は5,464円です。前回調査（5,307円）と比べ157円増え、前年同期参考値（5,109円）を335円上回っています。

平均賃上げ率は、318組合の平均で2.06%と前回調査から0.05%上昇しています。前年同期参考値比（2.08%）では若干下回っています。

建設関連労連（平均11,185円・2.23%）、民放労連（平均7,735円・2.62%）が全体を牽引しています。

前回調査からの推移を単産別にみると、建交労（523円増）、JMIU（253円増・+0.05%）、合同繊維（300円増・+0.12%）、出版労連（63円増・+0.22%）で微増していることが確認できます。

前年参考値と比べ、建設関連労連（1,543円増）、JMIU（141円増）、合同繊維（300円増）、出版労連（528円増）で平均額が上回っています。

ベースアップ相当分の水準をみると額揭示のあった97組合での単純平均は1,557円となっています。前回調査（78組合平均1,614円）からは57円減と若干減少しましたが、民放労連から「静岡朝日テレビ労組が14年ぶり、KBCテレビが13年ぶり、テレビ長崎が7年ぶりに『ベアゼロの壁』を打ち破った」と報告が寄せられるなど、多くの組合がベースアップにこだわり、ストライキを構えたたたかいを進め、「ベア獲得」の広がりが確認できる状況となっています。

6.ストライキ実施状況

現段階で、216組合から、のべ256組合（調査組合中9.7%）のストライキ実施の報告が寄せられています。3月12日の全国統一行動日を中心に、JMIU（95組合）、日本医労連（81）、通信労組（22）、全印総連（6）建交労（5）、民放労連（3）、出版労連（2）、生協労連、郵政ユニオン（各1）でストライキを実施しており、前年同期参考値と比べ0.5%増加しています。

生協労連の京都生協では、3月12日の全国統一行動日に正規・非正規の仲間1,200人が時限ストライキを執行しています。

7.妥結状況

23日時点で妥結もしくは妥結方向となっているのは、要求提出組合の4.8%にあたる62組合となっています。前回調査（40組合・3.3%）から22組合・1.53%増えました。前年同期参考値（118組合・8.1%）と比べ56組合・3.3%下回っており、集中回答日以降、3月決着に向け交渉を進めながらも、納得のいく回答を求めて、粘り強く交渉を展開している状況が伺えます。

まもろう憲法と暮らし ストップ暴走政治 実現しよう！大幅賃上げと雇用の安定